

2026 年度 理事長所信（案）

公益社団法人春日部青年会議所
第 62 代理事長予定者 白石 博樹

想いやりと感謝の心

～人と人が支え合う、心の豊かさ溢れる地域の創造～

【はじめに】

1965 年、春日部青年会議所がこの地域に創立してから昨年で 60 年を迎えました。60 年という歳月は人間に例えるなら還暦。還暦は古来より「生まれ変わり」や「再出発」の意味があります。私たち春日部青年会議所メンバーは、新たな気持ちでこの地域に対して運動を展開してまいります。

春日部青年会議所は「愛する郷土の発展」と「人間性の向上」を理念に掲げています。これまで運動を続けてこられたのも地域の皆様をはじめ、各行政の皆様、関係諸団体の皆様からのご理解ご協力があったからです。そして、時代ごとの課題を捉え、地域に対して想いを持って運動を紡いでこられた先輩諸氏のお陰であります。全ての皆様に感謝と敬意を申し上げます。

青年会議所は「明るい豊かな社会」を目指し、日々活動に取り組んでおります。より良い社会の実現には、春日部青年会議所が大切にしている理念である「人間性の向上」が不可欠だと考えます。私の考える「明るい豊かな社会」とは、心の豊かさに溢れた人が多くいる社会、すなわち『想いやりと感謝の心』に満ちた社会です。

想いやりとは、個人が持つ価値観や信念が、自分以外の他者の気持ちを想像し、理解に努め、役に立とうと行動することです。感謝の心は誰もが一度は抱いたことがあるでしょう。代表的なのが、人に親切にされた、困った際に助けてくれたときに抱きます。感謝の心は、誰かの行動によって自分が恩恵を受けたときに抱く感情なのです。

想いやりと感謝の心に溢れた社会は、日常で感謝の言葉が行き交い、温かく前向きな感情に満ちています。自分の利益だけでなく、他者のために行動し喜びを感じると互いに幸福感に満たされ、心の豊かさを持った人で溢れる地域になっていくと考えます。

しかし、昨今の世の中は、予測不能な速さで変化をし、未来が不確かで、多くの要素が絡み合い、何が正しいか曖昧な社会となっています。このように社会を取り巻く課題が複雑化した現代では、一つの課題を解決しても、まるでイタチごっこのように新たな課題が生じます。このような時代だからこそ、私たち一人ひとりが自身を磨き、成長すること、すなわち、人間性を向上させることで、今後直面する課題にも柔軟に適応し、関わる人たちと支え合いながら未来を切り拓いていけるでしょう。

他人と過去は変えられません。自分と未来は変えられます。今を生きる私たちが自分自身と向き合い、想いやりと感謝の心を育み、今よりも良い未来を創造していきましょう。私たちメンバーが率先して、その気持ちを強く持ち、運動に邁進してまいります。

【志を同じくし、想いをカタチに】

青年会議所には、理事会を始め各種会議が複数あります。会議では、青年会議所運動を展開するために何が効果的か日々企画を考えています。そこで練り上げたモノが、想いの詰まった企画書というカタチになります。青年会議所には経営者やサラリーマン、小さな子どもを持つメンバー等、それぞれの分野で活躍をし、様々な経験をした多くのメンバーが在籍しております。様々な経験を持つメンバーが、それぞれの視点から意見を出し合うことで、更に質の高い企画へと繋がります。そこで本年は、従来の会議を大切にしながらも、新たな会議スタイルを導入し、活動の質を更に高めていきます。

それぞれの想いをカタチにしていき、活動できることへの感謝の心を持ち、更に良い運動を展開していきましょう。

【地域を想う仲間を求めて】

春日部青年会議所が設立より継続している運動が会員の拡大です。青年会議所は40歳までの限られた時間の中で活動をしている中で、地域を想う仲間が毎年卒業していきます。この地域に運動を展開するには、地域を想う仲間が多く在籍していることが不可欠です。組織に多くの仲間がいれば、課題が複雑化した現代でも、地域を良くしたいという想いを持ったメンバーの知恵を結集し、より効果的な運動を展開できるでしょう。

更に、青年会議所の運動の目的や春日部青年会議所の理念に共感したメンバーが増えれば、これまで以上に力強い運動を展開していくことに繋がっていくと考えます。なぜなら、目的や理念を理解した人が増えた組織は、これからの中を見据えたときに組織を強固に支えてくれるからです。そして、青年会議所で得た経験を活かして地域に貢献してくれるでしょう。

私たちが地域で運動できることに感謝をして、この感謝の心を拡げていきましょう。

【機会を大切にし、成長の糧に】

私はこれまで自身のLOMや出向で様々な役職を担ってきました。どの役職も同じものではなく、年度ごとに多くの機会を与えていただき、そこで多様な経験を通して大きく

成長することができました。青年会議所には理事長をはじめとする多くの役職があります。その中で学んだことは「役職者に敬意を表す」ということです。単年度制である青年会議所において、同じ役職は二度担うことはありません。だからこそ、役職を受けた方の覚悟に敬意を表し、一つひとつの機会を大切にするためにも、活動中は役職者に敬意と感謝の心を持って接し、多くの経験を積み重ねていきましょう。

そして、自身のLOMの良さを知るためにには、公益社団法人日本青年会議所をはじめとする広域青年会議所の活動に目を向けることも重要です。そこでは、スケールの大きな大会や事業、最先端の情報に触れることができます。また、それぞれの地域で活動する青年会議所においては、各地域に沿った理念や考え方で運動を展開しています。こうした活動に触ることは、自身のLOMとの違いを知り、それぞれの良さを深く理解することに繋がります。様々な機会のある青年会議所活動において、自身を高めることに繋がり、活動の幅を大きく広げていくことができるでしょう。

【想いを育み、地域を導くリーダーへ】

私はメンバーが地域に対して運動を展開していくためには、ひとづくり（指導力開発）をしていかなければならないと考えます。青年会議所のテーマには、まちづくり（社会開発=Community Development）と、ひとづくり（指導力開発=Leadership Development）をもとに、運動活動をしております。私たちが唱和するJCIミッションの中には「青年会議所は、青年が社会により良い変化をもたらすためにリーダーシップの開発と成長の機会を提供する」と記されております。社会に良い変化をもたらすには、市民の意識を変えることが必要です。そのためにはまずは、メンバー自身が内に秘める能力を開発し、人間形成に努め、自身を磨くことでしかリーダーシップを身につけることはできません。リーダーシップ能力が不足していれば、市民の意識を変えることも、より良い運動を展開することも困難になってしまいます。だからこそ、ひとづくり（指導力開発）をしていき、自身の内に秘める能力を開発していきましょう。

【自身を磨き、心の豊かさを育もう】

近年、企業によるパーカス経営が注目をされ、導入が進んでいます。これは企業が自社の存在意義や社会的価値を明確にして、企業価値の向上と社会貢献の両立を目指す経営手法です。

私は心の豊かさを育むためには、パーカス経営の考え方を個人に置き換え、「自分は何のために生きるのか」「社会にどのような価値を提供したいのか」といった問いと向

き合い、人生の指針となる信念を明確にする機会が必要だと考えます。なぜなら、課題が複雑化した現代においては、予期せぬ変化や新たな環境でもしなやかに立ち振る舞う力である「適応力」と、情報を見極め、本質を見抜き、新たな価値を創造する「思考力」が求められるからです。だからこそ、自身を磨き、知識を身につけることが大切なのです。

人は自分にはない価値観や情報に触れたとき、成長するきっかけを見出します。その価値観や情報を自ら解釈をして理解し、行動に移すことで大きく成長することができます。また、その過程で実体験を伴う経験ができれば更に成長することができるでしょう。成長に不可欠な有益な情報に触れ、自身を磨き、心の豊かさを育んでいきましょう。

【地域を担う子どもたちの心の豊かさを育もう】

私は子どもたちには、社会的な繋がりを持ち、自分以外の誰かに対して役に立った経験をして成長をしてほしいと考えます。課題が複雑化した現代においては、子どもたちの取り巻く環境でも同様なのではないでしょうか。私は子どもたちが学習をしていく上で、平等に学習機会があるべきだと考えます。しかし、学習環境の変化、学校行事の縮小、部活動の民間移行により子どもたちの活動の機会が減少しています。

そこで子どもたちには、自己有用感を持ってもらいたいと考えます。自己有用感とは、自分には価値があり、誰かの役に立っていると感じる感覚です。自己有用感が高まれば、今後の地域には『想いやりと感謝の心』を持った子どもたちが増え、将来、地域を力強く支えてくれると信じています。

そして、子どもたちの自己有用感を高めていくには、大人の協力がなければなりません。そのためには活躍できる環境や機会を設け、成長を支援していくことが必要です。子どもたちの可能性を最大限に広げ、その成長の一助を担っていきましょう。

【異なる文化に触れ、心の豊かさを育もう】

春日部青年会議所とアメリカ合衆国カリフォルニア州パサディナ青年会議所との相互訪問事業は本年で41年目を迎えます。両青年会議所の「理解と友情」と「地域社会の国際化」を目的に1通の手紙から始まりました。まるで連続ドラマのように、参加者の心を揺さぶり、価値観さえ変えてしまうほどの魅力的で想いの詰まった多くのストーリーがあります。本事業は、長い歴史の中で育まれた友情を土台に脈々と受け継がれてきた春日部青年会議所が誇る大切な事業です。春日部青年会議所メンバーには、『想いやり

と感謝の心』を育むことのできる本事業を体感し、パサディナ青年会議所メンバーと友情を育んでいきましょう。

そして、青少年たちには、日本とは異なる文化を直接感じてもらいたいと考えます。なぜなら、大切な成長期に異なる文化や自身とは異なる価値観に触れるることは、大きな成長のきっかけとなり国際的な視野が広がっていくからです。国際的な視野の広がりは、課題が複雑化した現代においても、これから的人生にとってかけがえのない経験となり、どんな障壁も乗り越えていくことができるでしょう。自身とは異なる文化や価値観を持つ人との交流を通して、感謝の心を土台とした心の豊かさを育んでいきましょう。

本年は私たちがアメリカの地を訪れる年です。これまで受け継がれてきた友情に感謝の心を持ち、かけがえのない経験をすることのできる本事業に、多くのメンバーと青少年と共にアメリカを訪れ、友情を育み、感謝の想いを伝えにいきましょう。

【最後に】

人は誰もが幸せになる権利があります。その幸せを手にするには、まず自分自身が「幸せになりたい」と強く求め、その想いを育むことが大切です。そして、周囲の人の協力なしには実現は難しいでしょう。周囲の人と互いの想いに向かって支え合い協力し合えれば、どんなに素晴らしいことでしょうか。想いが実現するとき、そこには必ず人の存在があります。

人は一人では生きていくことができず必ず誰かの支えがあります。今ある日常は決して当たり前ではありません。今、自分が生きていることに感謝しなければならないのです。

パナソニック創業者の松下幸之助氏は「感謝の心が高まれば高まるほど、それに比例して幸福感が高まっていく」という言葉を残しています。感謝の心を持つことが、想いを実現する近道なのです。

心が変わり、行動が変われば、やがて自身の運命さえ変えられるでしょう。それぞれの人の想いが成就したとき、そこに心の豊かさに溢れた地域が生まれると信じています。

私自身、これまで関わってくださった全ての人の想いに応えるべく、感謝の心を胸に抱き、与えていただいた恩に想いやりを持って返すためにも覚悟を持って1年間邁進してまいります。

1年間、よろしくお願ひいたします。

基本方針（案）

総務会員室 室長 深井 孝典

けいおうかいらい 継往開來

～想いを引き継ぎ、未来をひらく～

創立以来、受け継がれてきた春日部青年会議所の使命を次代へと繋げていくためには、円滑な組織運営のもと、私たちの運動や活動に共感する仲間を新たに迎え入れ、一人ひとりが積極的に活動に取り組み、地域のために力強い運動を展開することが必要です。

その実現のため、総務会員室が組織の根幹として活動環境を整え、各委員会が最大限の運動ができるよう、私たち総務会員室は委員会を繋ぐ架け橋として、組織全体の円滑な運営を支えてまいります。

私たちが目指すのは、多くの仲間とともに地域の課題を解決することです。メンバーとしても、より多くの人と関わることで新たな知識や価値観に触れる機会が増え、その中で自身が磨かれるることは人間性の向上に繋がります。そのため、組織としても毎年新たなメンバーを迎える必要があります。

しかし、現状では会員拡大に対する意識に差があるため、組織全体としての運動になりにくく、一部のメンバーや委員会に偏ってしまっています。

また、JAYCEE 育成塾は塾生が青年会議所活動の意義を理解し、成長に繋がることを実感できる機会にしなければなりません。活動の基礎を知る機会である JAYCEE 育成塾で思うような学びが得られなければ参加率が低下し、それぞれの学びに差が生じてしまいます。

私たちは、会員の拡大と新入会員の成長を両立させ、組織全体が円滑に機能する体制を築くことこそが、地域課題の解決に繋がる運動の基盤であると考え、創立以来より受け継がれてきた地域への想いを次代へ継承し、未来に繋がる強固な組織を築いてまいります。

最後に、総務会員室の室長として新たな挑戦の機会をいただけたことに感謝し、支えてくださる全ての皆様への想いやりと感謝の心を胸に邁進してまいります。

1年間、よろしくお願ひいたします。

基本方針（案）

総務財政委員会 委員長 中原 一

しんこんこてい 深根固柢

～搖るぎない礎が、組織を前に進める～

公益社団法人春日部青年会議所は、昨年創立 60 周年を迎えることができました。これまで長きにわたり運動を続けてこられたのは、地域を良くしたいという先輩諸氏の弛まぬ努力と、地域の皆様のご理解、ご協力があったからこそです。この想いを継承し、これからも力強い運動を展開していくためには、各委員会が最大限に力を発揮できるよう組織基盤をしっかりと固める必要があります。

組織の根幹を担う総務財政委員会は、各委員会活動が円滑に進むよう、組織運営に尽力します。そのためには「この組織全体の運動は自分たちの支えがなければ成り立たない」という意識を持つことが、力強い運動の展開に繋がると考えます。

当委員会は総会や理事会の設え、厳格な財務管理を行う中で、組織を支えているという自覚を持って活動に取り組みます。財政審査会議や議案ミーティング会議では、各委員会の企画書を「自分たちの事業成功に関わるもの」として真剣に議論し、コンプライアンスの遵守、対外資料の適正性を厳しく審査することで、各委員会活動を後押しします。

春日部青年会議所の目的は「愛する郷土の発展」と「人間性の向上」です。この目的に向け、毎年掲げられる理事長所信のもと、各委員会活動が行われています。

しかし近年は、新入会員が多くなっている一方で、中核を担ってきた多くのメンバーが卒業しています。常に世代交代していく青年会議所では、歴の浅いメンバーはもちろん、長く在籍しているメンバーにおいても、改めて青年会議所運動の目的を理解する機会が必要です。理解が不足していると、「目的意識のない状態での活動」になってしまい、一人ひとりが持つ力を最大限に発揮することが難しくなります。

そこで、青年会議所運動の目的を理解する場を提供いたします。根本的な部分の理解が深まることで目的が明確となり、活動に取り組む気持ちが前向きに変化し、各々が委員会活動でより力を発揮できるようになると考えます。

最後に、総務財政委員会は家に例えるならば建物を支える基礎です。春日部青年会議所が今後も力強い運動を展開していくために、組織を支える委員会として当事者意識を持って組織運営に尽力してまいります。

1年間、よろしくお願ひいたします。

【事業計画】

- (1) 定款、諸規定に関すること。
- (2) 総会・理事会・財政審査会議・議案ミーティングの設営および関連資料の作成。
- (3) 会員名簿の完備、ハンドブック・名刺の作成。
- (4) 褒賞、表彰に関すること。
- (5) JC ルームの管理及び物品備品の保管、管理に関すること。
- (6) デジタルアーカイブ（各資料のデジタル化と管理）に関すること。
- (7) 例会・事業に於ける会員の出欠記録に関すること。
- (8) 会費の徴収に関すること。
- (9) 財務の管理に関すること。
- (10) 各委員会との連絡調整に関すること。
- (11) その他各委員会に属さない事項に関すること。
- (12) 会員の退会に関すること。
- (13) 会員の拡大に関すること。
- (14) 会員の参加意識の高揚と出席率の向上に関すること。

基本方針（案）

JAYCEE 育成塾 塾長 厚川 雅信

積極果敢

～未知への挑戦は、自らを切り拓く～

公益社団法人春日部青年会議所にとって JAYCEE 育成塾が、新入会員の登竜門として長年設置され続けてきたのは、入会した新入会員にとって JAYCEE 育成塾が青年会議所活動の意義を理解し成長に繋がることを実感できる機会であったからだと考えます。

しかし、入会して間もないメンバーは青年会議所とは何か、どのような活動をしているか、また活動から得られる成長とは何なのかを理解していないまま参加しているメンバーも少なくありません。このような状況では、青年会議所活動へ参加する動機となる委員会や例会においても、なぜ参加しなければならないのかの理由が曖昧になり、参加意識が薄れることで本来実感できるはずの成長や経験が得られず、さらに参加意欲が下がる悪循環を生んでしまいます。

そこで、本年度の JAYCEE 育成塾では、青年会議所とはどのような組織であるかという基礎を知るところからはじめ、一年間春日部青年会議所の運動や活動を通して、ここでしか得られない経験を積みながら学んでいただきたいと考えます。青年会議所の仕組みや考え方、そして意欲的に参加された方の成長した経験など様々アプローチで青年会議所について知ることで、目的に向かって自分に合った向き合い方を掴むことが出来ると考えます。そうすることで、自ら参加する意義を見出すことができ、自ずと例会や委員会への参加率も向上し、より感化される機会が増えていくことでしょう。

私は今年で青年会議所活動も 11 年目を迎えます。これまでの青年会議所活動では、様々な成長や挫折を経験させていただきました。今振り返ればどれも私自身の血となり肉となり私自身そのものとなっていると感じます。2026 年度の塾生には、青年会議所活動を通じて様々な経験から自らの成長を実感してもらい、次の年度には自らチャンスを掴んでいけるようになっていただきたいと思います。

1 年間、よろしくお願ひいたします。

【事業計画】

- (1) 新入会員へのオリエンテーションに関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (2) その他、新人会員に関すること。
- (3) スポンサーに関すること。

- (4) コミュニティ推進協議会に関すること
- (5) 会員の拡大に関すること。
- (6) 会員の参加意識の高揚と出席率の向上に関すること。

基本方針（案）

会員拡大会議 議長 伊藤 徹生

共振共鳴

～ともに感じ、共に歩もう！！～

春日部青年会議所は、愛する郷土の発展と人間性の向上を目的とし、今まで運動、活動をしてまいりました。地域に対して力強い運動を生み出すためには、地域を想う多くの仲間が必要です。多くの仲間の考えに触れながら地域の課題を解決しようと切磋琢磨することは人間性の向上につながると考えます。そのためには、メンバー一人ひとりが前向きな拡大運動を展開することが必要です。

しかし、現在のメンバーの拡大意識には差が生じており、組織全体としての拡大運動に繋がっておらず、調査結果においては、入会対象者に対し、実際に入会し活動することで得られる魅力の伝え方が分からずという答えが多く見受けられました。

入会動機はそれぞれ違います。そして、活動していく中で魅力の感じ方も変化していきます。だからこそ、改めてこの組織に期待する魅力や、得られた価値観を共有し、未来をつくる仲間に伝えていくことが大切です。

そこで本年度は、春日部青年会議所での運動を通して得られる魅力を今一度メンバー全体に共有し、各々が未来の成長を想像して自分たちの運動に希望を持てるようになっていただくことで、メンバーそれぞれからの魅力の発信に繋げてまいります。

魅力の伝道師が増えることで拡大運動はより力強く展開することができ、理念に共感してくれる仲間が必ず増えると確信しております。そして、共に活動する仲間が増えることで、地域へより大きな価値を届けられる組織を目指し、メンバー全体が春日部青年会議所に入会して良かったと心から想える組織であり続けられるよう尽力致します。

1年間、よろしくお願ひいたします。

【事業計画】

- (1) 会員の拡大に関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (2) 会員の入会に関すること。
- (3) 例会・事業のオブザーバー参加者の出席記録に関すること。
- (4) 入会対象者に関する資料の収集及び管理に関すること。
- (5) 会員の参加意識の高揚と出席率の向上に関すること。

基本方針（案）

広報室 室長 金子 雅樹

想いの架け橋

～つながりに感謝を、挑戦に火を～

本年度、広報室では、春日部青年会議所の運動や活動を地域の皆さんに届けるとともに、その意義をご理解いただき、さらにメンバー一人ひとりの想いに共感していただることで、賛同者の輪を広げてまいります。

これまでの情報発信も一定の効果を上げてきましたが、引き続き地域の皆さんに私たちの運動や活動の意義をお伝えするとともに、各メンバーの想いや目的が伝わるよう、発信方法や内容を工夫し、より効果的な発信に努めてまいります。

また、先輩諸兄姉が長年にわたり築いてこられた、行政や関係団体の皆さまとの信頼関係を大切にし、先輩方のご指導と、行政・関係団体の皆さんからのご支援に深く感謝しながら、誠意をもってこれまでのつながりを継続してまいります。

そして、その信頼をさらに積み重ねることで、私たちの活動や地域への運動を、より力強く展開していくと考えます。

さらに、広域青年会議所や他青年会議所の運動や活動に触れる機会は、メンバー自身の成長や春日部青年会議所の発展につながります。

しかし現状では、広域青年会議所や他青年会議所が行う事業の目的や価値を十分に伝えられておらず、参加によって得られる学びや効果を実感しにくい傾向にあります。そのため、メンバーの参加意欲を十分に引き出せておらず、視野を広げる機会が限られています。

本年度、役職を受けられた方への敬意と、関わるすべての方への感謝の心を胸に、春日部青年会議所の良さをメンバーと地域の皆さんに伝え、地域に誇れる活動を展開してまいります。

また、広域青年会議所や他青年会議所の活動内容を、誠実かつ熱意をもって伝え、メンバーの心に火を灯すことで、新たな挑戦への一歩を踏み出すきっかけを創出してまいります。

こうした行動を通じて、メンバーは自身の成長や挑戦の幅を広げ、やがて自らの未来を切り拓くと確信しています。

1年間、よろしくお願ひいたします。

基本方針（案）

広報涉外委員会 委員長 新井 久彦

想いを届ける

～共感と信頼の絆で歩む未来へ～

本年度、広報涉外委員会では、春日部青年会議所の運動やメンバーの想いを発信し、地域の皆様にその存在と運動の意義を理解していただくことで、応援の輪を広げてまいります。

しかし現状、情報発信を行っているものの、私たちの運動の意義やメンバーの想いが地域の皆様へ十分に届けられておらず、理解や共感が広がりにくい状況にあります。

そこで、各種媒体を活用することで春日部青年会議所の運動や活動を発信し、さらにメンバーの青年会議所に対する想いを伝える為に、発行誌を3か月に1回発行します。また、地域に根差したメディアとの連携やプレスリリースを通じて情報を発信し、地域の皆様に私たちの想いを身近に感じていただくことで応援の輪が広がる広報活動に取り組んでまいります。

私たちが61年にわたり運動を続けてこられたのは、先輩諸兄姉が築き上げてこられた地域の皆様との信頼関係の賜物に深く感謝申し上げます。行政や各種関係団体との信頼関係を大切にし、今後も誠意をもってその信頼をさらに積み重ねてまいります。

一方で、先輩諸兄姉からの助言を受ける機会が減り、さらには行政や関係団体との信頼関係が希薄になることで、ご協力を十分に得られず、力強い運動の展開が難しくなるおそれがあります。だからこそ、日頃よりご支援を賜る皆様に対し、感謝の想いを誠実かつ丁寧にお伝えし、信頼関係を継続してまいります。

さらに、広域青年会議所の事業や他青年会議所の運動、交流を通じて学び、メンバーの視野を広げることで、自己成長へつなげてまいります。

しかし、その目的および参加する価値を伝えきれていないため、メンバーの興味や関心を十分に引き出せていない状況です。

そこで、多くの仲間と参加することで、メンバーへ学びを得られる機会を提供し、さらに出向者の応援もしてまいります。これにより、メンバー一人ひとりの成長につなげ、春日部青年会議所のさらなる発展に寄与してまいります。

これまで春日部青年会議所を支えてくださったすべての方々への感謝の心を胸に、地域の皆様に私たちの想いが届く発信を行うとともに、メンバー一人ひとりが学びと成長を実感できる活動を展開し、次代へつながる運動を築くことで、春日部青年会議所のさらなる発展と地域の未来に邁進してまいります。

1年間、よろしくお願ひいたします。

【事業計画】

- (1) 専務理事の補佐に関すること。
- (2) 広報に関すること。
- (3) 慶弔に関すること。
- (4) 公益社団法人日本青年会議所、関東地区協議会、埼玉ブロック協議会との連絡調整に関すること。
- (5) 各種大会の案内・手配及び出向者に関すること。
- (6) 行政その他、地域の諸団体との渉外に関すること。
- (7) 例会・事業等に関する資料・写真・映像などの収集及び管理に関すること。
- (8) ホームページの管理に関すること。
- (9) 情報の収集及び提供に関すること。
- (10) じゃがいもの補佐に関すること。
- (11) サッカー部に関すること。
- (12) 会員の拡大に関すること。
- (13) 会員の参加意識の高揚と出席率の向上に関すること。

基本方針（案）

研修室 室長 皆川 一樹

想いがまちの未来を育てる

～一人ひとりの自己成長が未来を紡ぐ地域社会～

本年度研修室では、春日部青年会議所メンバーと地域の方々に以下の方針を進めてまいります。

メンバー一人ひとりが、自己成長することで、相手に良い影響を与えられる力を身につけてほしいと考えます。なぜなら、相手に良い影響を与えようとする過程で試行錯誤を繰り返しながら、自身を磨き成長することができるからです。そうすることで、お互いが成長し合う関係が組織全体に広がり、やがては市民の意識を変えることに繋がっていくでしょう。

しかし、相手に良い影響を与えるためには、信頼されることが不可欠です。なぜなら、信頼している相手の言葉だからこそ、素直に受け取ることができ、行動に移せるからです。信頼がなければ言葉は受け取られることなく一時的なものに留まり、お互いの関わりが続かず、成長の機会も生まれません。

地域の人々が、お互いを受け入れ、成長していくために、自分と異なる考え方を受け入れる姿勢をもってほしいと考えます。なぜなら、その姿勢があることで、お互いの考えを安心して伝え合える関係が生まれるからです。こうした関係が広がることで、お互いの考えを理解し合い、違いを受け入れ合える地域が育まれていくでしょう。

しかし、異なる考え方を受け入れるためには、自分の考えに至った背景を理解し、それを相手に伝えられることが不可欠です。なぜなら、たとえ考え方自体は異なっていても、その背景にある経験や想いには共感することができるからです。その考え方へ至った背景を伝えることができなければ、相手はその考えに込められた経験や想いを理解できず、お互いに違いを受け入れることが難しくなってしまいます。

研修室ではこの1年間、メンバー一人ひとりが人に良い影響を与えられる力を身につけ、自分と異なる考えを受け入れるように成長を促してまいります。一人ひとりの成長の積み重ねを地域全体に広げ、想いやりと感謝の心が溢れる地域を育んでまいります。

1年間、よろしくお願ひいたします。

基本方針（案）

想いを育むリーダーシップ開発委員会 委員長 長谷川 拓未

そうしんきょうせい 想信共成

～想いを言葉に、信頼を築き、挑戦を後押しする～

私たち想いを育むリーダーシップ開発委員会は、メンバー一人ひとりが自己成長していくために、相手に前向きな変化を生み出せるようになってほしいと考えています。なぜなら、前向きな変化を生み出せる人は、相手の悩みや気持ちを理解しようとする姿勢をもっているからです。そして前向きな変化を生み出す過程の中で、相手の状況や気持ちに寄り添うことにより、自分の言葉の選び方や関わり方に気づきが生まれ、自己成長につながるでしょう。そうすることでメンバー一人ひとりが成長し、前向きな変化を生み出し合う関係に変わっていきます。このような関わりが広がることで、組織全体が互いを高め合う雰囲気に近づき、やがては市民の意識を前向きに動かす力へとつながっていくでしょう。

しかし、相手に前向きな変化を生み出すためには、自分の言葉と行動が一致させ、相手から信頼を得ることが必要です。なぜなら、信頼がない人からの言葉では、相手は耳を傾けようとは思わないからです。また、その上で相手に合わせた柔軟な対応も求められます。どれほど想いを持って関わったとしても、相手の状況や気持ちを踏まえられなければ、相手の変化は生まれにくくなってしまいます。もしこれらが備わらないまま関わりを続けると、相手に前向きな変化を生み出そうとしても、表面的な関わりにとどまり、相手にも自分にも成長の機会をもたらせません。

そこで私たちはメンバー一人ひとりが自分の想いを言葉にし、その想いに沿って行動する大切さを学ぶ機会を設けます。なぜなら、想いと行動が一致している姿は相手からの信頼につながり、相手に前向きな変化を生み出すための土台となる関係を築くからです。さらに、効果的に相手の変化を生み出すために「人によって受け止め方が違う」ということに気づき、より良い関わり方を選択できるようになる機会を設けます。そうすることで、相手に前向きな変化を生み出せる存在へと成長するでしょう。

私は春日部青年会議所に入会してから、尊敬すべき仲間と出会い、「この人ならどう考えるだろう」と想像できる存在に恵まれました。その出会いは、表立つタイプではなかった私自身のビジョンや言動に大きな影響を与え、今年度、委員長としての自分を形づくってくれました。だからこそ今年度は、メンバー一人ひとりが自分の想いを見つけ、言葉にし、行動に移す機会を設けます。互いに信頼を築き合い、未来のリーダーを育む場となり、地域に前向きな変化を広げるようになることを信じて、全力で取り組んでまいります。

1年間、よろしくお願ひいたします。

【事業計画】

- (1)会員の資質向上に関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (2)じやがいもに関すること。
- (3)会員の拡大に関すること。
- (4)会員の参加意識の高揚と出席率の向上に関すること

基本方針（案）

想いを育む地域研修委員会 委員長 瀧石 直人

想いに寄り添う地域づくり

～異なる考えを学びに、想いやりのある地域へ～

本年度想いを育む地域研修委員会では、地域の人々が自分とは異なる考えに触れた時、その考えに至った理由に関心を向ける姿勢を持って欲しいと考えます。なぜなら、その姿勢があることで、互いに話しやすくなり考え方を伝え合うことができるからです。そうなることで、お互いの考え方を理解し、相手に想いやりを持てる人が地域へと育まれていくでしょう。

しかし現状では、自分の考えを表現する力が低下しています。なぜなら、文化庁の調査によると、自分を表現したいと感じながらも、相手から「否定されるのではないか」という不安から自分の考えを言えず、コミュニケーションが萎縮してしまう傾向が強まっていると報告されています。こうした傾向から地域の活動に参加する人が減り、相手との対話は表面的なやりとりにとどまっています。このままでは、異なる考えに触れても、相手の考えに至った理由に関心を向けようとする姿勢が育ちにくくなり、対話も生まれにくくなっていくでしょう。

そこで、自分の考えがどのような経験によって形成してきたのかを振り返り、自己理解を深める機会を設けます。なぜなら、自己理解を深めることで、自分の考えに自信を持ち伝えられるようになり、さらに異なる考えに触れたときも、考えに至った理由に目を向けることができるからです。こうした姿勢が広がることで、対話が生まれやすい関係が育ち、地域の人々が互いに想いやりを持つことへつながっていくでしょう。

私は本年度、初めて委員長という役を受けさせていただきました。これまで春日部青年会議所で歴代委員長の背中を見てきた中で、私もその責務を全うしたいと強く思うようになりました。委員会メンバーと団結し、先輩諸氏に恥じることのないよう、精一杯努めてまいります。

1年間、よろしくお願ひいたします。

【事業計画】

- (1) 地域市民の資質向上に関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (2) 会員の拡大に関すること。
- (3) 会員の参加意識の高揚と出席率の向上に関すること。

基本方針（案）

育成室 室長 福田 忠広

子どもたちの想いやりが未来をつくる

～想いやりを持ち、大人が支え、成長する子どもたちへ～

本年度、育成室では地域の子どもたちが、誰かの役に立つ経験をしていきながら「自己有用感」を高めていけるよう、1年間導いてまいります。

「自己有用感」が高まることで、「自分は誰かの役に立てている」「自らの行動には価値がある」と、自ら感じができるからです。こうした想いが育まれていき、人の役に立とうとする姿勢をもって行動することにつながっていくでしょう。

そして、私たち大人が子どもたちに寄り添い、支える姿勢を持つことが大切です。なぜなら、子どもの成長を支える大人の存在があってこそ、子どもが安心して挑戦できる環境が生まれるからです。

しかし近年、子どもたちが仲間と協力し、挑戦する機会は減っています。仲間と協力して課題に取り組む中で、貢献し、感謝される経験は子どもたちにとって大きな喜びとなり、「自分が人の役に立てた」という実感につながります。このような経験が少ないと、人の役に立つことの意義を感じにくくなってしまい、結果として、人の役に立とうとする姿勢を持つことが難しくなっていくではないでしょうか。

また大人たちは、地域コミュニティのつながりが希薄になり、地域の子どもと関わる機会が減り、子どもの気持ちを理解し支える場面が少なくなっているように感じます。そのような状況が続くことで、地域コミュニティのつながりがさらに弱まり、大人が子どもの変化に気づけなくなってしまうのではないかと考えます。

地域の子どもたちには、人を想いやる気持ちを持つことの大切さを伝えていきます。その想いを基盤に、地域の子どもたちがさまざまな物事に取り組む中で、誰かの役に立つ経験を重ねながら成長していくよう支えていき、「想いやりと感謝の心」を持つ子どもたちを育んでまいりましょう。

1年間、よろしくお願ひいたします。

基本方針（案）

青少年育成委員会 委員長 小磯 克己

“人のため”が未来を変える。

～想いが芽吹き、行動が花開く～

本年度、青少年育成委員会では地域の子どもたちに、人の役に立ちたいという想いを持ってほしいと考えます。なぜなら、その想いをもって行動することが、人から感謝されたり頼られたりする経験となり、自分が人から必要とされている存在だと実感することに繋がっていくからです。そのような経験を重ねていく中で、自らの行動に価値があると前向きに考えることが出来るようになるでしょう。

また、私たち大人は、子どもの気持ちに寄り添い、挑戦を応援できる存在であってほしいと考えます。なぜなら、子ども達の立場になって、成長を支える事が出来るからです。そうすることによって、子ども達が安心して挑戦できる環境を作ることができるでしょう。

しかし近年、学校行事の減少や縮小、外遊びの制限により、子どもたちが仲間と共に協力し合い、助け合う経験が減少しています。その結果、他者との関わりの中で「自分の行動が人の役に立つ」といった実感をする機会が少なくなっています。そのような環境では、想いやりが芽生えにくく、「人の役に立っている」気持ちが生まれづらくなっているのではないかでしょうか。

また、地域コミュニティや地域イベントの減少や縮小により、大人が子どもたちと関わる機会が少なくなっています。その結果、子どもたちを見守ったり支えたりする場面が減少し、大人の支えが大切だと感じる機会が損なわれていると考えます。

そこで本年度、子どもたちには仲間と共に協力し、自分の行動が人の役に立っていると実感できる機会を提供いたします。相手の気持ちや立場を理解して、相手を想う気持ちを芽生えさせることで、想いやりのある行動に繋がります。そして自分の想いやりのある行動が相手に認めてもらえる喜びを実感することで、人のために行動する大切さを理解することができると考えます。

そして大人たちには、子どもたちがやりたいことを受け止め、成長を後押しすることが必要だと考えます。なぜなら、子どもたちの挑戦に対して背中を押し、見守りながら成長を実感することにより、大人の支えが大切だと理解することに繋がるからです。

最後に、地域の未来を切り拓くのは、次代を担う子どもたちです。そして、その子どもたちを導くのは、私たち大人の覚悟ある姿です。子どもたちが自らの可能性を信じ、

何事にも挑戦できるように心から寄り添い、背中で示す大人として、力強く邁進してまいります。

1年間、よろしくお願ひいたします。

【事業計画】

- (1) 青少年の育成に関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (2) 会員の拡大に関すること。
- (3) 会員の参加意識の高揚と出席率の向上に関するこ

基本方針（案）

国際室 室長 小林 雅人

The Enduring Bond

～心を繋ぐ、感謝と友情の灯～

春日部青年会議所とアメリカ合衆国カリフォルニア州パサディナ青年会議所との交流事業は、本年で41年目を迎えます。昨年は、春日部の地でパサディナの仲間達を迎えて、友情を育みました。そして今年、私達はパサディナの地を訪れます。1枚の手紙から始まった交流が、互いの文化や価値観を尊重し合い、理解と友情を育んできたからこそ、40年の時を重ねて脈々と受け継がれてきました。この搖るぎない友情の歴史と、それを通じて地域社会の国際化に貢献してきたことに対し、心からの感謝を申し上げます。

本事業は、両青年会議所の「理解と友情」のもとに「地域社会の国際化」という熱い想いが脈々と受け継がれてきた大切な事業です。これからも、パサディナ青年会議所との理解と友情を継続して参ります。しかし、春日部青年会議所の渡米を経験したことがあるメンバーは1割に減少してしまい、パサディナホームステイプログラムを継続していくことが困難になり、地域社会の国際化ができなくなってしまう恐れがあります。

また、地域の青少年達には、地域社会の国際化のために、文化や価値観の違いから外国人と相互理解を深める機会が必要とされています。なぜなら、現代の地域社会において、多くの外国人が暮らす中で、日本における日常の体験とは異なり、肌で感じる海外の文化や価値観とは違うものだからです。インターネットを通じて情報は容易に得られるものの、現地の日常の暮らしの息づかいまで感じることはできません。多感な時期にこのプログラムで、文化や価値観の違いを感じることこそが、お互への想いやりと感謝の心を育む、青少年達の未来にとってかけがえのない経験になると考えます。

私は春日部青年会議所へ入会し、この交流事業に深く携わったことで、パサディナメンバーとの間に、言葉の壁を超えた理解と友情を築くことができました。そして、この事業を通じて成長していく青少年達の姿は、私にとってかけがえのない宝物となっています。この一年、パサディナメンバーとの友情、そして青少年達の相互の友情を育み、お互への想いやりと感謝の心を胸に、多様な価値観を理解する、人生を変えるほどの大きなきっかけを創出したいと強く思います。

1年間、よろしくお願ひいたします。

基本方針（案）

国際交流委員会 委員長 大丁 暉也

Friendship and International Exchange

～パサディナホームステイプログラムの41年目の歩み～

春日部青年会議所とアメリカ合衆国カリフォルニア州パサディナ青年会議所との交流は、本年で41年目を迎えます。1枚の手紙から始まったパサディナホームステイプログラム(以下 PHP 事業)を、40年に渡って歴史を築いてくださった全ての方々に、深く感謝申し上げます。

春日部青年会議所とパサディナ青年会議所との交流は、文化や価値観の違いを越えて、理解と友情を育んできた歴史があります。私たちは、まず相手を受け入れる「理解」の姿勢を大切にし、その理解の積み重ねによって「友情」が生まれ、継続していくと考えています。

しかし近年、PHP 事業の渡米経験者が減少し、全体の約1割しか実体験を持っていません。実際に現地で体験して分かる魅力を語れる人材が少ない今、この理解と友情を継続することは難しくなっています。そこで本年度は、エピソードを聞くことや現地に行ったように感じられる疑似体験の場をつくり、そのうえで渡米メンバーにはパサディナの地で生まれる感動を肌で感じてもらいます。そしてその感動を、組織全体へ共有し、PHP 事業の魅力を理解してもらうことで、春日部青年会議所全体で PHP 事業を未来へつないでまいります。

また、PHP 事業では、ホストファミリーの想いやりを肌で感じることができ、その経験は感謝の気持ちを育み、相手を想いやる心へとつながります。こうした想いやりの心が、多様な文化と価値観を自然に受け入れ、地域社会における国際化の基盤をつくります。

しかし現在、日本では外国人と深く交流する機会が限られており、日常生活だけでは青少年が外国の文化や価値観に触れる実体験が不足しています。そこで私たちは、PHP 事業を通じて、青少年が異文化に触れ、海外の価値観や考え方を肌で感じる機会を提供します。現地での経験と学びが地域社会の国際化を広げるきっかけとなります。

この国際交流事業は、私自身が春日部青年会議所に入会してから最も心を動かされた事業のひとつであり、パサディナ青年会議所の仲間たちと築いた関係、そして青少年たちが成長していく姿は、私にとってかけがえのない大切な経験です。この想いを次の世代へ継続し、異文化を理解することで「友情」が生まれる瞬間を、これから共に創り出していくきたいと思います。

1年間、よろしくお願ひいたします。

【事業計画】

- (1)国際交流に関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (2)パサディナ青年会議所との交流事業に関する調査・研究・計画・立案・実施。
- (3)会員の拡大に関すること。
- (4)会員の参加意識の高揚と出席率の向上に関すること。

基本方針（案）

じゃがいも キャプテン 三橋 悠

そうだ じゃがいも、行こう。

春日部青年会議所は、多くの先輩諸氏が地域社会の第一線でご活躍され、確かな信頼を築き上げてこられたからこそ、私たちは今日も地域へ力強く運動を展開することができます。

「じゃがいもゴルフコンペ」では、先輩諸氏から貴重なお話を伺えるとともに、普段なかなか関わる機会のないメンバー同士が交流を深めることができる絶好の場となっています。こうした交流を通じて得た知識や経験は、今後の春日部青年会議所の活動をより有意義なものにしていくことでしょう。

秋のじゃがいもゴルフコンペは久喜青年会議所との合同開催となります。春日部青年会議所だけでなく、他の青年会議所メンバーとの交流を通じて、さまざまな考え方や価値観を知ることができる貴重な機会です。また、両青年会議所の絆を育み、この合同ゴルフコンペの伝統を学び、未来へとつなげていくことは重要であると考えます。

今年キャプテンを務めます私は24歳の小僧で、春日部青年会議所に入会したばかりです。ゴルフは未経験でルールすらわからない完全初心者でございます。私の自慢はただ1つ、リーチがかなり長いことです。気合十分ではございますが、リーチを活かしているか殺しているか、今後の成長を皆様にはお楽しみにしていただければと思います。

そして、まだじゃがいもゴルフコンペに参加したことのない現役メンバーと同じ目線に立てております。だからこそ、未経験の方も含めぜひ多くのメンバーにじゃがいもゴルフコンペにご参加いただきたいと考えております。

じゃがいもゴルフコンペでは、老若男女を問わず、上手・下手に関係なく楽しめる場であると考えます。スコアの勝ち負けより、参加者同士の交流も大切にしていたければ幸いです。

右も左も分からぬ未熟者ではございますが、初心者・経験者を問わず、どなたでも参加しやすいじゃがいもゴルフコンペとなるよう、誠心誠意努めてまいります。

1年間、どうぞよろしくお願ひいたします。

【事業計画】

- (1) じゃがいも春場所の実施
- (2) じゃがいも秋場所（一般社団法人久喜青年会議所との合同）の実施。

(3) じゃがいも練習会の実施。

(4) 会員との親睦を図ること。

基本方針（案）

サッカー部キャプテン 飛田 悠太郎

サッカーを通して「深く」仲間のことを知る

私は今までサッカーの経験が皆無に等しく、学校での体育の授業以外、ほとんどしたことありません。ですが、興味が無かったわけではありません。

私は小中学校で野球をしていましたが、サッカークラブやサッカー部の友達が楽しそうにサッカーをプレイしているところを見て、やってみたいなあと思っていたことを今でも覚えています。

2026年はワールドカップもありサッカーへの注目も集まる中、私もJCの仲間たちと共に汗を流し、サッカーをしたいと思っています。

1年間、サッカー部での活動を通じ交流の機会を作り、仲間のことを今よりも深く知ることができればと思っています。

OBの皆様や会員のご家族、JC歴の長い方でも短い方でも、上手い下手なんて関係ありません！みんなで楽しく汗をかいて、より良い関係を築きましょう！

1年間、よろしくお願ひいたします。

【事業計画】

- (1) 練習会の実施。
- (2) 全国大会への参加。
- (3) 会員との親睦を深めること。